

第79回 (R6.7)

紫陽花(あじさい)

「梅雨がなくて、このまま夏が来るんじゃないか」6月に入ると夏色の空から、連日強い日差しが降り注ぎました。年老いた身には過酷な日々が続いたのですが、悲鳴と戸惑いが天に届いたのか、22日になって山陰も梅雨入りし、生きとし生けるもの皆がやっと一息つきました。

ところで、梅雨を代表する花と言えば紫陽花です。この花、万葉集にも歌われていて日本固有の花のようですが、近年西洋で品種改良が進み、多彩な色や形の紫陽花が回るようになりました。温室育ちの鉢植えが4月ごろから出回り始め、5月の母の日は、カーネーションと並びほどの売れ行きです。

一方、地植えのものも6月になって開花します。



しとしと降る雨に打たれる紫

陽花の、涼やかで清楚な姿は初夏の風物詩です。鎌倉の明月院や長谷寺、京都の三千院、善峯寺、三室戸寺それに岩船寺、近いところでは松江の月照寺。これらはアジサイ寺としてつとに有名で、花を愛でる多くの人々が訪れます。

先月、みしまや学園店付近の河川敷に、県の農業技術センターで栽培した紫陽花50本を植えました。同センターはこれまで「万華鏡」をはじめ次々と新品种を開発しており、来年の開花が楽しみでです。今後さらに200本ほどを植え、楽山橋付近の河川敷は、一面の紫陽花畑にする予定です。

1月の水仙、4月の桜、5月の麦撫子、6月の紫陽花、そして秋のコスモス。朝酌川土手は花いっぱいこのプロムナード(散歩道)として、これからも進化を続けます。